

平成22年度

大分大学大学院教育学研究科

修士課程

# 学生募集要

(第2次募集・第3次募集)

平成21年12月

大 分 大 学

**(第2次募集)**

出願期間 : 平成22年1月25日(月)~2月4日(木)

試験期日 : 平成22年2月20日(土)

合格者発表 : 平成22年2月23日(火)

**(第3次募集) ※第2次募集で募集人員に満たない場合に実施します。**

出願期間 : 平成22年3月1日(月)~3月3日(水)

試験期日 : 平成22年3月18日(木)

合格者発表 : 平成22年3月21日(日)

## 目 次

### 学 生 募 集 要 項

	ページ
◎大分大学大学院教育学研究科アドミッション・ポリシー	1
Ⅰ 募集人員	3
Ⅱ 出願資格	3
Ⅲ 出願手続	4
Ⅳ 出願書類等	4
Ⅴ 出願上の注意事項	6
Ⅵ 入学者選抜方法等	6
1 学力検査及び口述試験	6
2 学力検査科目及び口述試験	8
一般志願者の選抜方法	8
現職教員等の選抜方法	11
外国人留学生の選抜方法	11
3 検査の配点	12
4 成績証明書	12
5 障がいのある者等の事前相談について	12
6 合格者の発表	12
7 入学手続	12
8 入学料及び授業料	13
9 長期履修制度について	13
Ⅶ 教育方法の特例措置について	14
◎ 検査場案内図	15

### 教 育 学 研 究 科 (修 士 課 程) 案 内

Ⅰ 概 要	16
Ⅱ 修士論文及び学位	16
Ⅲ 免許・資格	17
Ⅳ 研究科の履修基準及び授業科目	18

# 大分大学大学院教育学研究科アドミッション・ポリシー

## 基本理念

学部教育で修得した学校教育の基本的知識及び学校教育現場における教師としての経験や知見を土台に、更に学校教育における理論と実践に関する学術分野の総合的な教育・研究を行うことにより、高い研究能力と教育的指導力を備え、実践力豊かな人材を養成するとともに、地域教育の発展に寄与することです。

## 教育の目標

高度な研究能力と教育的指導力を備えた人材を育成するため、学校教育に関する理論的、実践的研究をとおして、現代社会がかかえる教育の諸問題に対処しうる判断力と問題解決能力の涵養を図っていきます。

### 1. 学校教育専攻・学校教育コース

学校教育の幅広い分野に関する専門的な教育ならびに各分野の諸問題についての理論的研究と現実の教育問題を解決するための実践的研究を行っていきます。

### 2. 学校教育専攻・臨床心理学コース

臨床心理学に関する専門的な教育や実習をとおして、様々な臨床心理学的課題やこころへの援助についての教育・研究を行っていきます。

### 3. 教科教育専攻

教科教育ならびにその基礎となる諸科学に関する理論と実践について専門的、系統的な教育・研究を行っていきます。

## 求める学生像

- ・学校教育に対する明確な課題をもち、課題解決のための研究と実践を、知的好奇心と情熱をもって遂行する人
- ・地域がかかえる多様な教育問題に対処するため、高度な教育的指導力を備えた教師をめざしている人

以上の点に加えて、各専攻・コースにおいては次のような人を求めています。

### 1. 学校教育専攻・学校教育コース

- ・教育学、教育心理学、障害児教育、幼児教育及び情報教育に関する理論的研究や実践的研究をより深く追究したい人

### 2. 学校教育専攻・臨床心理学コース

- ・臨床心理士の資格取得をめざし、臨床心理学に関する理論的研究や実践的研究をより深く追究したい人

### 3. 教科教育専攻

- ・教科教育ならびにその基礎となる諸科学の知識、技術、技能等に関する理論的研究や各教科の教育に関する実践的研究をより深く追究したい人

## 入学者選抜の基本方針

学校教育における理論と実践に関する高い研究能力と教育的指導力の養成を目的としているため、学校教育に関する幅広い基礎的知識と明確な目的意識に加え、教育に対する情熱を求めます。また、地域がかかえる教育の諸問題に対処し、地域社会と連携した研究・教育を推進するため、現職教員等を積極的に受け入れます。

この方針のもとに、本研究科では、一般志願者、現職教員等、外国人留学生を対象に、それぞれ異なる方法で選考を行い、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜します。

- 一般志願者は、外国語、専門科目及び口述試験で選考します。なお、音楽教育専修では専門科目によっては実技を課します。また、美術教育専修では専門科目1科目は作品又は研究論文で審査します。
- 現職教員等は、書類審査と口述試験で選考します。
- 外国人留学生は、外国語、専門科目及び口述試験で選考します。なお、数学教育専修と英語教育専修では外国語の試験は英語を課します。それ以外の専修は日本留学試験又は日本語能力試験の結果を外国語の得点に換算します。

## I 募集人員

専攻	専修・コース(系)		募集人員	備考
学校教育	学校教育コース	(教育学)	若干名	学校教育コースには、教育学、教育心理学、幼児教育及び特別支援教育を含みます。
		(教育心理学)		
		(幼児教育)		
		(特別支援教育)		
教科教育	国語教育専修		14名	
	社会科教育専修			
	数学教育専修			
	理科教育専修			
	音楽教育専修			
	美術教育専修			
	保健体育専修			
	技術教育専修			
	家政教育専修			
英語教育専修				

※注意：今回の募集では、学校教育専攻臨床心理コースの募集は行いません。

### 備考

- 募集人員には、外国人留学生の募集人員を含みます。なお、外国人留学生とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により在留する者をいいます。また、「留学」以外の在留資格を有する者で、来日後9年未満の者についても本研究科が許可した場合は外国人留学生と同じ選抜方法を認めることがあります。詳細は、大分大学学生支援部入試課(TEL097-554-6701)にお問い合わせください。
- 募集人員全体の3分の1程度を現職教員等(現職教員等の範囲については11ページ参照)の受け入れ枠とします。

## II 出願資格

- 大学を卒業した者、及び平成22年3月までに卒業見込みの者
- 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者、及び平成22年3月までに授与される見込みの者
- 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、及び平成22年3月までに修了見込みの者
- 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者、及び平成22年3月までに修了見込みの者
- 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの

7 大学教育を修了するまでに16年を要しない国からの外国人留学生であって次の条件を充たし、かつ本研究科が日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

※ 大学教育修了後日本国内又は外国の大学もしくは、大学共同利用機関法人等これに準ずる機関で、研究生・研究員等として1年以上研究に従事した者及び1年以上研究に従事する見込みの者で、平成22年3月31日までに22歳に達した者

8 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

9 文部科学大臣の指定した者

「昭和28年文部省告示第5号」抜粋

教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による小学校、中学校、高等学校、幼稚園の教諭もしくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で、平成22年3月31日までに22歳に達した者

10 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成22年3月31日までに22歳に達した者

※ 外国人留学生については独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験(EJU)」の「日本語」又は日本語能力試験1級を受験している者に限ります。

(注1) 7に該当する者は平成21年12月24日(木)(第3次募集の場合は、平成21年2月18日(木))までに入試課へ履歴書(期間に空白がないもの)、最終大学卒業証明書、最終大学成績証明書及び研究従事証明書(期間が明記されたもの)を添えて問い合わせてください。なお、すべての書面には日本語の翻訳文を必ず添付してください。

(注2) 6、10については、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他教育施設の卒業者等であっても、個別の入学資格審査により大学院への入学資格を認めることができるとしているものです。これにより出願する者は、平成21年12月24日(木)(第3次募集の場合は、平成21年2月18日(木))までに入試課(TEL097-554-6701)に問い合わせてください。

### III 出願手続

志願者は「IV 出願書類等」に掲げる書類等を取り揃え、下記出願期間中に提出してください。

#### 1 出願期間

第2次募集 平成22年1月25日(月)～2月4日(木)まで。(必着)

第3次募集 平成22年3月1日(月)～3月3日(水)まで。(必着)

※第3次募集は、第2次募集で募集人員に満たない場合に実施します。

ア 受付時間は、午前9時から午後5時までとします。(土日、及び祝日を除く)

イ 郵送の場合は、本学所定の封筒を用い、書留速達にしてください。

#### 2 提出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課

### IV 出願書類等

区 分	摘 要	該 当 者
(1)入学志願書・受験票	本学所定の用紙	全 員
(2)成績証明書	出身大学長又は学部長が作成したもの	全 員 ※現職教員等を除く
(3)卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書	出身大学長又は学部長が作成したもの	出願資格1号・3号・4号該当者 ※現職教員等を除く
(4)学士の学位授与証明書	大学評価・学位授与機構が証明したもの	出願資格2号該当者

(5) 研究計画書	本学所定の用紙	一般・外国人留学生
(6) 志願理由書	本学所定の様式に従って作成したもの	現職教員等
(7) 自作品の楽譜 (音楽教育専修)	最近の自作曲1曲 組曲, 小品などは数曲でもよいこととします。	学力検査科目で「作曲」 を選択した者
(8) 研究論文 (美術教育専修)	美術教育及び美術一般に関する論文で3編以内。該当する論文がない場合は, 他の学術領域に関する論文(p.10 備考3 参照)	学力検査科目で「研究論文」を選択した者
(9) 教育職員免許状の写し 又は授与証明書	免許状を授与された都道府県教育委員会が作成したもの	現職教員等
(10) 受験承諾書	現に学校及び教育関係機関に在職している者で現職のまま入学を希望する者は, 本学所定の用紙により所属長の作成した受験承諾書	現職教員等
(11) 日本留学試験, 又は日本語能力試験の成績証明書の写し	独立行政法人日本学生支援機構の日本留学試験又は日本語能力試験1級の成績証明書の写し	外国人留学生
(12) 外国人登録済証明書	在留資格, 在留期間を明示したもの	外国人留学生
(13) 入学検定料払込証明書 (30,000円)	以下のいずれかの方法により本学指定口座に振込んでください。 ①郵便局・その他の金融機関での払込 本学所定の振込用紙を用い, 郵便局・その他の金融機関窓口で振込手続を行ってください。 ②コンビニエンスストア(一部)での払込 本学ホームページ <a href="http://www.oita-u.ac.jp/">http://www.oita-u.ac.jp/</a> (携帯版は <a href="http://daigakuic.jp/u.php?u=00041">http://daigakuic.jp/u.php?u=00041</a> ) から払込専用ホームページへアクセスするか, もしくは直接下記 URL にアクセスし, 指示に従い払込手続を行ってください。 (払込専用 URL) <a href="http://www.oita-u.net/">http://www.oita-u.net/</a> (携帯電話用 URL) <a href="http://www.oita-u.net/mobile/">http://www.oita-u.net/mobile/</a>  ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からはアクセスできないことがあります。 振込み後は, ①の場合は郵便振替払込受付証明書(大学提出用)を, ②の場合は収納証明書(コンビニによっては領収書)を, 受験票下の貼付欄にはがれないように糊付けしてください。 手数料は, 本人負担です。	全 員 ※国費外国人留学生を除く
(14) 受験票等返送用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し, 350円の切手を貼ったもの	郵送申込者のみ
(15) 合格通知用住所シール	本学所定の用紙	全 員



## V 出願上の注意事項

- 1 出願後の書類の変更・返却及び検定料の払い戻しはできません。
- 2 外国人留学生の提出書類のうち、外国文のものは日本語による翻訳文を添付してください。
- 3 外国人留学生として出願する場合は、あらかじめ入試課(TEL.097-554-6701)にお問い合わせください。
- 4 現職教員等以外の在職中の者は、出願時に受験承諾書を提出する必要はありませんが、合格した後在職したまま入学を希望する場合は、入学手続きの際に勤務先の入学承諾書が必要です。なお、非常勤・臨時雇用等で、入学時に職場の変更が予想される場合は、入学後に勤務先の入学承諾書を提出してください。
- 5 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には、利用しません。ただし、入学科・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者にあつては、選考資料として利用します。
- 6 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

## VI 入学者選抜方法等

### 1 学力検査及び口述試験

(1) 学力検査・口述試験 実施日 第2次募集 平成22年2月20日(土)

第3次募集 平成22年3月18日(木)

※第3次募集は、第2次募集で募集人員に満たない場合に実施します。

(2) 学力検査・口述試験 検査場 大分大学教育福祉科学部(旦野原キャンパス内)

(3) 学力検査・口述試験 時間割

### ○一般・外国人留学生

専攻	専修	外国語科目	専門科目	口述試験
学校教育				
教科教育	国語教育 社会科教育 数学教育 理科教育 保健体育 技術教育 家政教育 英語教育	9:00~10:00	10:30 ~12:30	13:40~
	音楽教育		10:30~11:30 ※1 11:40~12:40 ※2	13:40~ ※3
	美術教育		10:30~11:30	12:10~

○現職教員等

専攻	口述試験
学校教育・教科教育	13:40～

備考

- (1) 検査場の位置の確認は、検査日前日の15時～17時の間に行ってください。試験室については、検査日前日の15時に教育福祉科学部玄関に表示します。受験者は検査日当日、試験開始15分前までに入室、着席してください。
- (2) 試験開始後30分以上遅刻した者は、受験できません。
- (3) 試験時間中は、必ず受験票を机の上に置いてください。
- (4) 音楽教育専修の検査時刻は次のとおりです。
  - ※1 は必須の音楽科教育の検査時刻
  - ※2 は選択の音楽科教育と音楽学を受験する場合の検査時刻
  - ※3 は口述試験及び専門科目の選択で実技検査を受験する場合の検査時刻

## 2 学力検査科目及び口述試験

### 一般志願者の選抜方法

入学者の選抜は、学力検査(筆記試験, 実技検査, 作品審査, 論文審査), 口述試験及び成績証明書の審査の結果を総合して行います。

なお, 10~11 ページの備考を参照してください。

◎印は必須科目を, ○印は選択科目を示します。

専攻	専修・コース	検査科目		口述試験
		外国語科目	専門科目	
学校教育	学校教育コース	1 科目選択 ○英語 ○ドイツ語	2 科目選択 ○教育学 ○教育心理学 ○幼児教育 ○特別支援教育	出願時に提出した研究 計画書・資料を中心に試 問します。
教科教育	国語教育専修	◎英語	◎国語科教育(必須) 1 科目選択 ○国語科教育 ○国語学 ○古典文学 ○近代文学 ○漢文学	
	社会科教育専修	1 科目選択 ○英語 ○ドイツ語 ○フランス語 ○中国語	◎社会科教育(必須) 1 科目選択 ○社会科教育 ○日本史 ○東洋史 ○西洋史 ○地理学 ○法律学 ○政治学 ○社会学 ○経済学(本年度実施せず) ○哲学 ○倫理学	
	数学教育専修	◎英語	◎数学科教育(必須) 1 科目選択 ○数学科教育 ○代数学 ○幾何学 ○解析学	

教	理科教育専修	1 科目選択 ○英 語 ○ドイツ語	◎理科教育(必須) 1 科目選択 ○理科教育 ○物理学 ○化 学 ○生物学 ○地 学	出願時に提出した研究 計画書・資料を中心に試 問します。
	音楽教育専修	1 科目選択 ○英 語 ○ドイツ語	◎音楽科教育(必須) 1 科目選択 ○音楽科教育 ○声 楽 ○器楽(ピアノ) ○器楽(木管楽器) ○作 曲 ○音楽学	
科	美術教育専修	◎英 語	◎美術科教育(必須) いずれかを提出 ○作 品 ○研究論文	
	保健体育専修	◎英 語	◎保健体育科教育(必須) 1 科目選択 ○保健体育科教育 ○体育学 ○運動学 ○学校保健	
	技術教育専修	◎英 語	◎技術科教育(必須) 1 科目選択 ○技術科教育 ○電気工学(本年度実施せず) ○機械工学 ○情報基礎	
育	家政教育専修	◎英 語	◎家庭科教育(必須) 1 科目選択 ○食物学 ○被服学(本年度実施せず) ○保育学 ○住居学 ○家庭経営学	
	英語教育専修	◎英 語	◎英語科教育(必須) 1 科目選択 ○英語科教育 ○英語学 ○英文学 ○米文学	

## 備考1

(1) 学力検査科目は、外国語科目1科目と専門科目2科目です。(美術教育専修を除く。)

美術教育専修では、外国語科目1科目と専門科目1科目及び作品又は研究論文の提出とします。

(2) 外国語科目の試験においては、辞書(英和・独和・仏和・中和)の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書の持ち込みはできません。また、英語教育専修の外国語科目の試験を受験する場合は、辞書の持ち込みを認めません。

(3) 専門科目のうち、選択科目(学校教育コースの選択科目については2科目のうち1科目)は入学後の主たる研究分野を選択してください。

## 備考2 音楽教育専修の専門科目のうち実技検査の内容について

声楽、器楽(ピアノ、木管楽器)を選択した者は、演奏する曲の作曲家・曲名・楽章等を、願書提出時に所定の欄に記入してください。

### (1) 声 楽

\* 任意の歌曲2曲(日本歌曲を必ず含めてください。)とオペラあるいはオラトリオのアリア1曲、計3曲を暗譜、原語で歌います。

\* 歌曲の調性は自由です。アリアは原調で演奏してください。(移調が慣例となっている曲は移調を認めます。)

\* 演奏時間は3曲あわせて10分程度とし、演奏の途中で切ることもあります。

\* 伴奏者は受験者各自が同伴してください。

### (2) 器楽(ピアノ)

\* 任意の楽曲を暗譜で演奏します。

\* 演奏時間は10分程度とし、演奏の途中で切ることもあります。

### (3) 器楽(木管楽器)

\* 木管楽器のうち1つで、任意の楽曲を暗譜で演奏します。

\* 演奏時間は10分程度とし、演奏の途中で切ることもあります。

\* 楽器は当日各自持参してください。

\* ピアノ伴奏を必要とする場合、伴奏者は受験者各自が同伴してください。

### (4) 作 曲

\* 最近の自作品1曲を出願時に提出します。

編成、演奏所要時間は自由(コピー楽譜可)です。なお、組曲、小品などは数曲でもよいこととします。

\* 当日提出されたモチーフの中から1つを選び楽曲を作曲します。(検査時間は2時間)

## 備考3 美術教育専修の専門科目について

(1) 必須の「美術科教育」には、芸術一般についての基礎的知識に関する出題を含みます。

(2) 選択により「作品」を提出する者は次のことを厳守してください。

持参する作品は3点以内とします。「作品」の大きさ、ジャンルは問いません。そのほかに、参考資料として、上記以外の作品の写真を持参してもよいこととします。作品は受験者が当日集合時間までに美術棟2階絵画室に持参してください。作品を搬送する場合は、大分大学大学院教育学研究科美術教育専修宛に期日指定により試験日前日に必着としてください。なお、開梱・梱包・返送は本人が行ってください。

(3) 選択の「研究論文」は美術教育及び美術一般に関する論文とします。

提出する論文は3編以内とし、それぞれに論文要旨(800字以内)を添付してください。該当する論文がない場合、他の学術領域に関する論文を提出することができます。この場合は、その論文が美術教育とどのような関連性をもつかを800字以内の文章にまとめ、各論文冒頭に添付してください。

なお、「研究論文」は出願書類とともに提出してください。その際、各論文には「美術教育専修・論文」と記載した表紙をつけてください。

## 現職教員等の選抜方法

現職教員等とは、日本の教員免許を取得し、かつ、次の各号の一に掲げる者をいいます。

- (1) 現に学校教育法第1条に定める学校及び教育関係諸機関に在職している者で、かつ、平成22年4月1日現在で3年以上の教職経験を有する者
- (2) 平成22年4月1日現在で、学校教育法第1条に定める学校において通算3年以上の教職経験(非常勤・臨時講師等を含む)を有する者

入学者の選抜は、「志願理由書」をもとにした書類審査及び口述試験の結果を総合して行います。

「志願理由書」には、(1)研究テーマ、(2)志願理由、(3)研究テーマ・志願理由に関連するこれまでの教育実践活動(研究授業、校内研修、研究会活動等を含む)、(4)研究計画を記入してください。

「志願理由書」記入上の注意事項

- (1) 別冊の「志願理由書」の様式に従って作成してください。原則としてワープロで作成したものとしますが手書きも認めます。
- (2) 手書きの場合は、黒の万年筆かボールペンを使用し、文字は楷書、数字は算用数字で正確に記入してください。
- (3) A4判を用いて、1枚目は40字×30行、2枚目以降は氏名と枚数番号をつけて、40字×40行で記入してください。
- (4) 字数は全体で6,000字程度とします。
- (5) 完成した書類は左上をホッチキスで留めて提出してください。

## 外国人留学生の選抜方法

入学者の選抜は、学力検査(筆記試験、実技検査、作品審査、論文審査)、口述試験及び成績証明書の審査の結果を総合して行います。

- (1) 外国語科目について

数学教育専修、英語教育専修を受験する者は、一般志願者と同じ「英語」を受験してください。

その他の専修・コースを受験する場合は、外国語の試験を免除し、日本留学試験又は日本語能力試験の結果を外国語科目(100点満点)の得点として換算します。

上記2つの試験で難易度に差が認められる場合には得点を調整することがあります。

- (2) 専門科目及び口述試験は一般志願者の選抜方法と同じです。なお、専門科目の解答は日本語で行います。
- (3) 美術教育専修の専門科目で研究論文を提出した者は、日本語による論文要旨(800字以内)を添付してください。

### 3 検査の配点

#### 一般志願者の選抜試験

学校教育専攻 外国語 100 点, 専門科目 200 点, 口述試験 100 点  
教科教育専攻 外国語 100 点, 専門科目 200 点, 口述試験 100 点

#### 現職教員等の選抜試験

学校教育専攻・教科教育専攻 書類審査 100 点, 口述試験 100 点

#### 外国人留学生の選抜試験

学校教育専攻 日本留学試験又は日本語能力試験100 点, 専門科目 200 点, 口述試験 100 点  
教科教育専攻

- ・数学教育専修・英語教育専修 英語 100 点, 専門科目 200 点, 口述試験 100 点
- ・数学教育専修・英語教育専修以外の専修  
日本留学試験又は日本語能力試験 100 点, 専門科目 200 点, 口述試験 100 点

### 4 成績証明書

提出された成績証明書について審査を行います。

### 5 障がいのある者等の事前相談について

本学へ入学を志願する者のうち、障がいのある者等で、受験上及び就学上特別の配慮を必要とする場合は、平成 22 年 1 月 15 日(金)までに、下記の事項を記載して(様式任意)、医師の診断書を添え入試課に提出してください。

- ・障がいの種類・程度
- ・受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・就学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・日常生活の状況及びその他参考となる事項

### 6 合格者の発表

合格者は、下記の日時及び場所に掲示するとともに、本人宛に合格通知書を郵送します。

日 時 第2次募集 平成 22 年2月 23 日(火)15時  
第3次募集 平成 22 年3月 21 日(日)17時  
場 所 中央掲示板(大分大学教養教育棟前)

また、本学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)にも合格者受験番号を掲載します。  
なお、電話による可否の問い合わせには一切お応えできません。

### 7 入学手続

合格者には、合格通知書とともに入学手続に必要な案内を送付します。

なお、在職のまま入学を希望する者(現職教員等を除く)は、入学手続時に勤務先の入学承諾書を提出してください。また、非常勤・臨時雇用等で、入学時に職場の変更が予想される場合は、入学後に勤務先の入学承諾書を提出してください。

## 8 入学料及び授業料

入学料 282,000 円

授業料(年額) 535,800 円(前期分 267,900 円 後期分 267,900 円)

注1 入学料・授業料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度があります。手続きを納付前にする必要がありますので学生支援課奨学支援グループ(TEL 097-554-7386)へ問い合わせてください。

注2 授業料については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納入することができます。

注3 入学料、授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

## 9 長期履修制度について

標準の修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、現職教員、有職者(正規雇用、臨時雇用を問いません)及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者(家事、育児及び介護など)です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められますが、第1学年が終了する前に申請することもできます。その場合の適用は翌年度からになります。また、修学状況等の変動により、申請した修学年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、2年間(標準の修業年限)に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年(学期)に支払うことになります。(下記の「授業料の納入例」参照)

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

### 【授業料の納入例】(平成21年度の場合)

標準修業年限(2年)

1年次	2年次	合計
(535,800円)	(535,800円)	1,071,600円

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の年額授業料

1年目	2年目	3年目
(357,200円)	(357,200円)	(357,200円)

$1,071,600 \text{円} \div 3 \text{年} = 357,200 \text{円}$  (1年間の授業料)

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の年額授業料

1年目	2年目	3年目	4年目
(267,900円)	(267,900円)	(267,900円)	(267,900円)

$1,071,600 \text{円} \div 4 \text{年} = 267,900 \text{円}$  (1年間の授業料)



## Ⅶ 教育方法の特例措置について

現職教員等に対しては、大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例措置を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を行います。

教育方法の特例措置は以下の 2 方式とします。

### 1 「1 年次フルタイム方式」

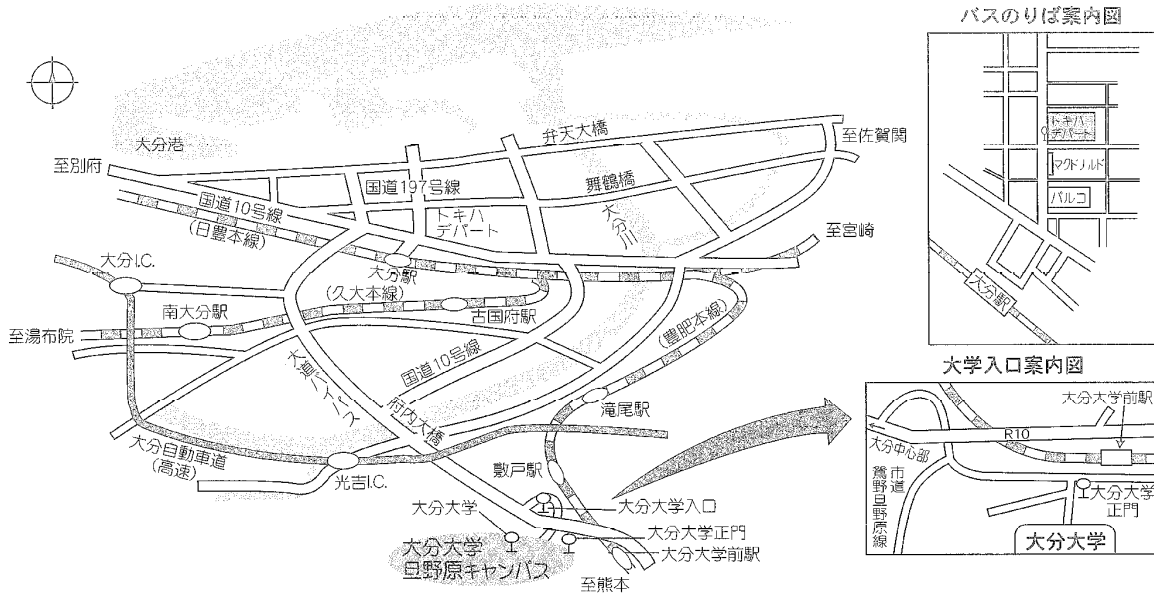
- (1) 1 年次にあつては、現職を離れて、通常の間帯に開講される授業を履修するとともに研究指導を受け、課程修了に必要な 30 単位のうち原則として 22 単位以上を修得します。
- (2) 2 年次にあつては、在職校等に勤務しながら、本研究科の指定した時間又は時間帯(通常の授業時間及び夜間、夏季・冬季の休業期間等)に通学し、課題研究 6 単位を含め課程修了に必要な残りの単位を修得するとともに、修士論文を作成します。
- (3) 2 年次には、指導教員の承諾を得て、夜間方式の授業も履修することができます。

### 2 「1・2 年次とも夜間等の授業を履修する方式(夜間方式)」

- (1) 1・2 年次とも、原則として、夜間(Ⅰ時限:18 時 10 分～19 時 40 分, Ⅱ時限:19 時 50 分～21 時 20 分)、夏季・冬季の休業期間中及び土曜日等)に開講される授業を履修するとともに研究指導を受け、課程修了に必要な 30 単位を修得し、さらに修士論文を作成します。
- (2) 指導教員の承諾を得て、昼間(通常の間帯)の授業(休業中の集中講義を含む)も履修することができます。

## ◎ 検査場案内図

### 大分大学旦野原キャンパス位置図



## ◎ 交通アクセス

### < JR利用 >

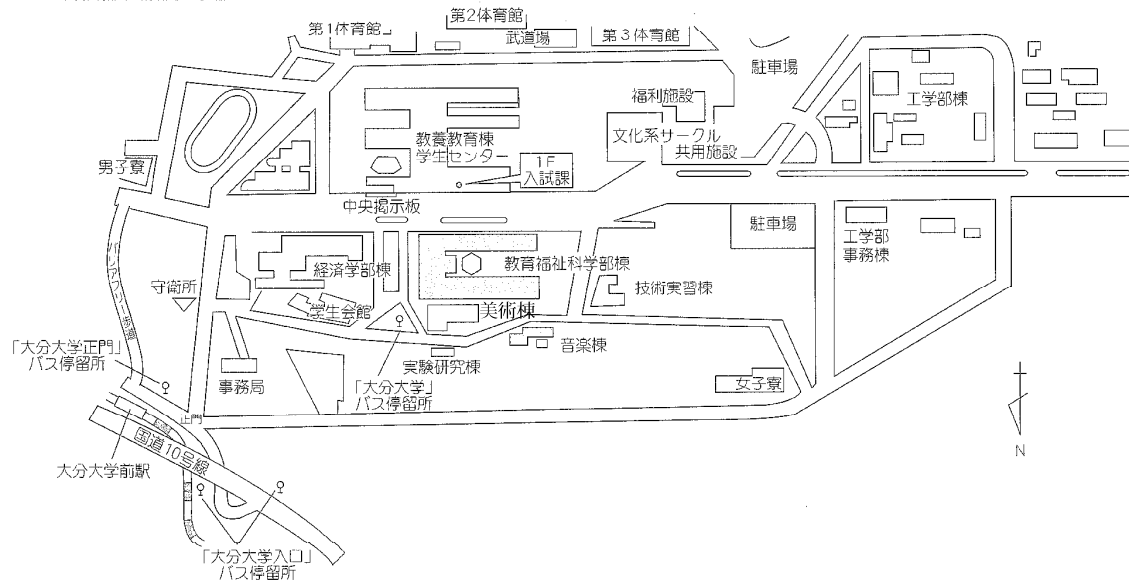
JR豊肥本線「大分大学前駅」下車（大分駅より約12分：240円）、徒歩約10分。

### < バス利用 >

大分バス トキハデパート前から

- 「高江ニュータウン・大南団地」又は「大分大学」行きを利用。  
「大分大学」又は「大分大学正門」下車（約40分：360円）
- 「戸次、白杵、竹田、三重、佐伯」行き等を利用。  
「大分大学入口」下車（約40分：350円）、徒歩約15分。

### 旦野原キャンパス案内図



## 教育学研究科（修士課程）案内

### I 概要

本研究科は、「学校教育専攻」及び「教科教育専攻」の2専攻で構成されています。

「学校教育専攻」には学校教育コース及び臨床心理学コースが設けられており、学校教育コースは教育学系、教育心理学系、幼児教育系、特別支援教育系からなっており、臨床心理学コースは臨床心理学系からなっています。また、「教科教育専攻」には国語教育専修、社会科教育専修、数学教育専修、理科教育専修、音楽教育専修、美術教育専修、保健体育専修、技術教育専修、家政教育専修及び英語教育専修が設けられています。

各専攻における分野と入学定員は、次表のとおりです。

専攻	専修・コース	(系)	分野	入学定員	
学校教育	学校教育コース	(教育学)	教育学, 教育史, 教育社会学, 学校経営, 教育内容・方法論, 道德教育	3名	6名
		(教育心理学)	教育心理学, 学習心理学, 発達心理学, 学校心理学		
		(幼児教育)	幼児教育		
		(特別支援教育)	障害児教育, 障害児心理学, 障害児生理学		
	臨床心理学コース	(臨床心理学)	臨床心理学	3名	
教科教育	国語教育専修	国語科教育, 国語学, 国文学, 漢文学	33名		
	社会科教育専修	社会科教育, 歴史学, 地理学, 法律学, 政治学, 社会学, 経済学, 哲学, 倫理学			
	数学教育専修	数学科教育, 代数学, 幾何学, 解析学			
	理科教育専修	理科教育, 物理学, 化学, 生物学, 地学			
	音楽教育専修	音楽科教育, 声楽, 器楽, 作曲, 音楽学			
	美術教育専修	美術科教育, 絵画, 彫刻, デザイン, 美術理論, 美術史, 工芸			
	保健体育専修	保健体育科教育, 体育学, 運動学, 学校保健			
	技術教育専修	技術科教育, 電気工学, 機械工学, 情報基礎			
	家政教育専修	家庭科教育, 食物学, 被服学, 住居学, 保育学, 家庭経営			
英語教育専修	英語科教育, 英語学, 英文学, 米文学				
合 計				39名	

### II 修士論文及び学位

#### 1 修士論文

修士論文は、教育の発展にかかわる基礎的研究をもととした学術論文、あるいは教育実践の向上に寄与する学術論文とします。

#### 2 学位

研究科に2年(標準)以上在学し、各専修・コースで定めた授業科目 30 単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者は、大分大学大学院教育学研究科を修了したものと認定され、「修士(教育学)」の学位が授与されます。

### Ⅲ 免許・資格

#### 教員免許状(専修免許)

1種免許状を取得している者が当該専修免許状に必要な単位を修得して本研究科を修了すれば、専修免許状が取得できます。ただし、入学を志願する専修によっては、専修免許状に切り替えられないことがあります。

専攻・専修によっては取得できる免許状は以下の表のとおりです。

2種免許状を取得している者は、本研究科を修了しても専修免許状は取得できません。

ただし、当該専修免許状に必要な単位を修得して本研究科を修了後、さらに必要な単位を加えて1種免許状を取得した場合は、教育委員会に申請して専修免許状を取得することができます。

専攻	専 修	取得できる免許状の種類	教 科
学 校 教 育		小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 書道, 保健体育, 家庭, 工業, 英語
		特別支援学校教諭専修免許状 3領域(知的障害, 肢体不自由, 病弱)	
		幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状	
教 科 教 育	国 語 教 育 専 修	小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	国語
		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	国語
		幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状	
	社 会 科 教 育 専 修	小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	社会
		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	地理歴史, 公民
	数 学 教 育 専 修	小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	数学
		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	数学
		幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状	
	理 科 教 育 専 修	小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	理科
		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	理科
	音 楽 教 育 専 修	小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	音楽
		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	音楽
		幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状	
	美 術 教 育 専 修	小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	
		中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状	美術
高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状		美術	
幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状			

専攻	専修	取得できる免許状の種類	教科
教科	保健体育専修	小学校教諭専修免許状	保健体育
		中学校教諭専修免許状	
		高等学校教諭専修免許状	
		幼稚園教諭専修免許状	
教育	技術教育専修	中学校教諭専修免許状	技術
		高等学校教諭専修免許状	工業
教育	家政教育専修	小学校教諭専修免許状	家庭
		中学校教諭専修免許状	
		高等学校教諭専修免許状	
		高等学校教諭専修免許状	
教育	英語教育専修	中学校教諭専修免許状	英語
		高等学校教諭専修免許状	英語

### 臨床心理士の受験資格

学校教育専攻臨床心理学コースは、平成18年度から財団法人日本臨床心理士資格認定協会より第1種大学院の指定を受けています。同コースに所属する学生は所定の単位を修得し、臨床心理学に関する修士論文を提出して修了すれば、臨床心理士の受験資格を得ることができます。

なお、「学校教育専攻臨床心理学コースに所属する学生」とは、学校教育専攻臨床心理学コースを受験し合格した入学生を指します。他コースや他の専修から臨床心理学コースへの転コースはできません。

## IV 研究科の履修基準及び授業科目

### 1 履修基準

本研究科において修得すべき単位数は、次のとおりです。

	学校教育専攻	教科教育専攻
学校教育に関する科目及び特別支援教育に関する科目	選択必修 6単位 選択 14単位	選択 4単位
実践研究に関する科目	—————	必修 4単位
教科教育に関する科目及び教科内容に関する科目	—————	選択 12単位
自由科目	選択 4単位	選択 4単位
課題研究	必修 6単位	必修 6単位
計	30単位	30単位

注1 学校教育専攻の「学校教育に関する科目及び特別支援教育に関する科目」の選択必修6単位は、教育学、教育心理学、特別支援教育の3分野から各1科目2単位ずつ修得するものとします。

注2 自由科目とは、授業科目のうち定められた単位数を超えて自由に修得した科目です。

注3 課題研究とは、各自の専攻する1つの分野に関する主題を、継続的研究課題として2年間にわたって深く研究する科目で、修士論文に直結します。

## 2 授業科目

平成 22 年度の本研究科の担当教員、授業科目及び研究分野は、次のとおりです。

### (1) 学校教育専攻

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
准教授 神崎英紀	教育哲学特論 教育哲学演習 道徳教育特論	・分析的教育哲学 ・道徳教育
未定	教育史特論 教育史演習	
未定	人権と教育特論 人権と教育演習	
教授 山岸治男	学校教育社会学特論 学校教育社会学演習	・教育・学習経験と社会性の発達 ・地域社会と学校 ・ライフコースと自我形成
教授 山崎清男	学校経営学特論 学校経営学演習	・教師教育制度の研究 ・指導行政の研究 ・生涯学習政策に関する研究 ・学校教育と社会教育の連携
准教授 伊藤安浩	教育課程・学習指導論特論 教育課程・学習指導論演習	・授業を中心とした教育実践に関する研究 ・教員養成・教師教育に関する研究 ・日米教育の比較文化的研究 ・芸術・美と教育に関する研究
未定	生活科教育特論 生活科教育演習	
准教授 竹中真希子	授業システム論特論Ⅰ 授業システム論特論Ⅱ	・コンピュータによる協調学習支援(CSCL) ・ITを活用した学習環境の開発 ・教師教育カリキュラムの開発
教授 大岩幸太郎	情報教育特論 情報教育演習	・教育情報学
未定	教育福祉特論Ⅰ	
未定	教育福祉特論Ⅱ	
未定	教育心理学特論 教育心理学演習 生徒指導論特論 生徒指導論演習	
教授 古城和敬	教育社会心理学特論 教育社会心理学演習 心理学研究法特論	・教師と児童・生徒の人間関係の研究
准教授 藤田敦	教授学習心理学特論 教授学習心理学演習 心理学研究法特論	・教授学習のプロセス ・認知発達
未定	発達心理学特論 発達心理学演習	
未定	発達社会心理学特論 発達社会心理学演習	

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 武内珠美	※臨床心理学特論Ⅰ ※臨床心理学特論Ⅱ ※臨床心理実習(通年) ※臨床心理応用実習 臨床心理学研究法特論 学校臨床心理学特論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子関係・父子関係の発達と心理的問題</li> <li>・心理療法の理論と実践</li> <li>・教育相談</li> </ul>
准教授 渡邊 亘	※臨床心理面接特論Ⅰ ※臨床心理面接特論Ⅱ ※臨床心理実習(通年) ※臨床心理応用実習 臨床心理学研究法特論 学校カウンセリング特論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理療法の理論と実践</li> <li>・遊戯療法の理論と実践</li> <li>・アイデンティティ論</li> </ul>
准教授 溝口 剛	※臨床心理査定演習Ⅰ ※臨床心理査定演習Ⅱ ※臨床心理実習(通年) ※臨床心理応用実習 臨床心理学研究法特論 学校心理アセスメント特論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談からみた現代学生の理解と支援</li> <li>・青年期の心理臨床</li> </ul>
未定	幼児教育方法学特論 幼児教育方法学演習	
准教授 田中 洋	幼児心理学特論 幼児心理学演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の社会性の発達研究</li> <li>・幼児の自己意識の研究</li> </ul>
教授 田中新正	重複障害教育特論 重複障害教育演習 障害児教育指導特論 肢体不自由教育演習 催眠療法特論 ※臨床心理基礎実習Ⅰ ※臨床心理基礎実習Ⅱ ※臨床心理実習(通年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作障害児の研究</li> <li>・重度・重複障害児の教育方法</li> <li>・自己コントロール法</li> </ul>
准教授 衛藤裕司	障害児心理学特論 障害児心理学演習 自閉症心理学特論 自閉症心理学演習 LD等心理学特論 LD等心理学演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症児の心理</li> <li>・自閉症児の指導法</li> <li>・LD児等の心理</li> <li>・LD児等の指導法</li> </ul>
教授 古賀精治	知的障害教育特論 知的障害教育演習 児童心理療法特論 児童心理療法演習 ※臨床心理基礎実習Ⅰ ※臨床心理基礎実習Ⅱ ※臨床心理実習(通年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児の指導法</li> <li>・発達障害児の理解と支援</li> </ul>
准教授 佐藤晋治	障害児心理アセスメント特論 障害児心理アセスメント演習 発達査定特論 ※臨床心理実習(通年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害児等の心理教育的アセスメントの理論と実践</li> <li>・発達障害児者等の心理臨床学的支援と臨床心理学的地域援助</li> </ul>

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 藤田長太郎	精神医学特論	・青年期精神医学 ・摂食障害の精神病理

※臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ，臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ，臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ，臨床心理実習，臨床心理応用実習の履修は，臨床心理学コース所属学生に限るものとします。

(2)教科教育専攻  
国語教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
未定	国語科教育特論Ⅰ 国語科教育特論Ⅲ 国語科教育演習Ⅰ	
教授 堀泰樹	国語科教育特論Ⅱ 国語科教育特論Ⅳ 国語科教育演習Ⅱ	・国語教育学(国語科授業論・国語単元学習)
未定	国語学特論Ⅰ 国語学特論Ⅲ 国語学演習Ⅰ	
教授 日高貢一郎	国語学特論Ⅱ 国語学特論Ⅳ 国語学演習Ⅱ	・国語学及び方言学
教授 田畑千秋	国文学特論Ⅰ 国文学特論Ⅲ 国文学演習Ⅰ	・日本古典文学 ・口承文芸学
准教授 藤原耕作	国文学特論Ⅱ 国文学特論Ⅳ 国文学演習Ⅱ	・国文学(近代文学)
准教授 佐々木博康	国語科教材特論Ⅰ 国語科教材特論Ⅱ	・西洋文学
教授 牛尾弘孝	漢文学特論Ⅰ 漢文学特論Ⅱ 漢文学演習	・宋明思想史研究 ・朱子学
未定	書道特論Ⅰ 書道特論Ⅱ 書道演習	
全教員	国語科教育実践研究Ⅰ 国語科教育実践研究Ⅱ 書道科教育実践研究Ⅰ 書道科教育実践研究Ⅱ	

社会科教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
准教授 永田忠道	社会科教育特論Ⅰ 社会科教育演習Ⅰ 地理歴史科教育特論	・社会認識教育学(地理歴史教育)
教授 平田利文	社会科教育特論Ⅱ 社会科教育演習Ⅱ 公民科教育特論	・社会科教育学(公民教育)



担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
未定	日本史特論 日本史演習	
准教授 甘利弘樹	東洋史特論Ⅰ 東洋史特論Ⅱ 東洋史演習	・東洋史(中国明清史)
未定	西洋史特論Ⅰ 西洋史特論Ⅱ 西洋史演習	
教授 鳥井裕美子	国際交流史特論Ⅰ 国際交流史特論Ⅱ 国際交流史演習	・近世対外交渉史 ・洋学史
教授 土居晴洋	人文地理学特論Ⅰ 人文地理学特論Ⅱ 人文地理学演習	・人文地理学(都市地理学)
教授 千田昇	自然地理学特論Ⅰ 自然地理学特論Ⅱ 自然地理学演習	・自然地理学(地形学)
未定	地誌学特論Ⅰ 地誌学特論Ⅱ 地誌学演習	
准教授 山崎栄一	法学特論Ⅰ 法学特論Ⅱ 法学演習	・憲法 ・行政法(災害法)
准教授 鄭敬娥	政治学特論Ⅰ 政治学特論Ⅱ 政治学演習	・国際政治学(東アジア国際関係)
教授 大杉至	社会学特論Ⅰ 社会学特論Ⅱ 社会学演習	・社会学理論 ・現代社会論
未定	経済学特論Ⅰ 経済学特論Ⅱ 経済学演習	
教授 黒川勲	哲学特論Ⅰ 哲学特論Ⅱ 哲学演習 倫理思想特論Ⅰ 倫理思想特論Ⅱ 倫理思想演習	・西洋哲学
全教員	社会科教育実践研究Ⅰ 社会科教育実践研究Ⅱ 地理歴史科教育実践研究Ⅰ 地理歴史科教育実践研究Ⅱ 公民科教育実践研究Ⅰ 公民科教育実践研究Ⅱ	

数学教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
未定	数学教育学研究 数学教育学演習	・数学教育学
教授 川 寄 道 広	数学科教育方法論 数学科教育方法論演習	・数学教育学 ・数学的概念の認知過程の研究 ・算数・数学における教材開発
教授 馬 場 清	代 数 学 特 論 I 代 数 学 特 論 II 代 数 学 演 習	・可換代数
教授 家 本 宣 幸	幾 何 学 特 論 I 幾 何 学 演 習 I	・集合論的位相空間論
未定	幾 何 学 特 論 II 幾 何 学 演 習 II	
講師 大 隈 ひ と み	解 析 学 特 論 I 解 析 学 特 論 II 解 析 学 演 習	・離散数学 ・情報科学の基礎としての数学
未定	解 析 学 特 論 III 解 析 学 特 論 IV	
全 教 員	数学科教育実践研究 I 数学科教育実践研究 II	

理科教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 牧 野 治 敏	理 科 教 育 学 特 論 I 理 科 教 育 学 演 習 I	・理科教育学 ・子どもの自然認識とその発達段階に関する研究
准教授 三 次 徳 二	理 科 教 育 学 特 論 II 理 科 教 育 学 演 習 II 地 質 学 特 論 地 質 学 演 習	・理科教育学 ・環境教育(野外体験活動) ・地質学(層位・古生物学)
未定	実 験 物 理 学 特 論 実 験 物 理 学 演 習	
教授 藤 井 弘 也	物 性 物 理 学 特 論 物 性 物 理 学 演 習	・物質構造の研究(誘導体, 磁性体, 生体高分子の構造と機能の研究)
教授 山 下 茂	計 算 物 理 学 特 論 計 算 物 理 学 演 習	・固体物性(X線, 粒子線による物質の相転移の研究) ・物理現象のシミュレーションとCAIへの応用
未定	分 析 化 学 特 論 分 析 化 学 演 習	
教授 中 島 俊 男	物 理 化 学 特 論 物 理 化 学 演 習	・生体関連物質の物性と分子動力学 ・分子シミュレーションの実際
講師 芝 原 雅 彦	有 機 化 学 特 論 有 機 化 学 演 習	
教授 高 濱 秀 樹	細 胞 ・ 組 織 学 特 論 細 胞 ・ 組 織 学 演 習	・脊椎動物松果体視細胞の構造解析

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
未定	発生生物学特論 発生生物学演習	
未定	植物細胞遺伝学特論 植物細胞遺伝学演習	
講師 泉好弘	バイオテクノロジー特論 バイオテクノロジー演習	・植物組織培養 ・葉緑体分裂に関する研究
教授 仲野誠	天文学特論 天文学演習	・星生成領域の観測的研究 ・輝線天体と星間物質の物理
講師 西垣肇	気象・海洋学特論 気象・海洋学演習	・海洋物理学(西岸境界流の力学機構)
全教員	理科教育実践研究Ⅰ 理科教育実践研究Ⅱ	

#### 音楽教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 松本正	音楽科教育特論Ⅰ 音楽科教育演習Ⅰ	・音楽科教育学(カリキュラム研究, 音楽鑑賞指導研究)
講師 藤原志帆	音楽科教育特論Ⅱ 音楽科教育演習Ⅱ 音楽療法特論	・音楽科教育学(指導法研究, 教材開発) ・障害児の音楽実践
准教授 栗栖由美子	声乐特論Ⅰ 声乐特論Ⅱ 声乐演習	・オペラ, 歌曲における演奏法研究 ・発声法, 歌唱法および同指導法研究
教授 田中星治	器楽特論Ⅰ 器楽特論Ⅱ 器楽演習Ⅰ	・鍵盤楽器の演奏法 ・鍵盤楽器における演奏解釈及び作品分析の研究
教授 西村一	器楽特論Ⅲ 器楽演習Ⅱ	・木管楽器の演奏法 ・木管楽器における演奏解釈及び作品分析の研究
教授 田村洋彦	作曲法特論 作曲法演習	・楽曲分析 ・編曲法 ・作曲法
准教授 松田聡	西洋音楽史特論 西洋音楽史演習	・18世紀を中心とする音楽史, 音楽思想史 ・オペラ史 ・音楽美学
未定	日本音楽特論	
全教員	音楽科教育実践研究Ⅰ 音楽科教育実践研究Ⅱ	

#### 美術教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
准教授 富田礼志	美術科教育特論Ⅰ 美術科教育演習Ⅰ	・美術・図画工作 ・工作・工芸教育 ・木材工芸
未定	美術科教育特論Ⅱ 美術科教育演習Ⅱ	

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
准教授 久間清喜	絵画特論 絵画演習Ⅰ 絵画演習Ⅱ	・絵画 ・版画
教授 佐脇健一	彫刻特論 彫刻演習Ⅰ 彫刻演習Ⅱ	・現代彫刻
講師 廣瀬剛	デザイン特論 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ	・グラフィックデザイン
准教授 田中修二	美学・美術史特論 美学演習 美術史演習	・日本美術史, とくに近現代 ・屋外彫刻作品の保存修復に関する美術史的考察
未定	工芸特論 工芸演習Ⅰ 工芸演習Ⅱ	
全教員	美術科教育実践研究Ⅰ 美術科教育実践研究Ⅱ	

保健体育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 西本一雄	保健体育科教育特論Ⅰ 保健体育科教育演習Ⅰ 体育科実践研究Ⅰ 体育科実践研究Ⅱ	・体育科教育学(教科内容研究)
教授 住田実	保健体育科教育特論Ⅱ 保健体育科教育演習Ⅱ 保健科実践研究Ⅰ 保健科実践研究Ⅱ	・保健科教育研究 ・保健科教材論 ・保健科授業分析
教授 古城建一	体育学特論 スポーツ教育実践研究	・遊び・スポーツ指導論
准教授 谷口勇一	スポーツ社会学特論 スポーツ社会学演習Ⅰ スポーツ社会学演習Ⅱ	・スポーツ社会学 ・生涯スポーツ振興方策
未定	運動学特論 運動学演習	
教授 麻生和江	運動方法学特論 運動方法学演習Ⅰ 運動方法学演習Ⅱ 舞踊教育実践研究	・舞踊教育方法
教授 石橋健司	運動生理学特論 運動生理学演習	・中高年者の身体運動

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 吉岡義正	学校保健特論 学校保健演習 保健体育研究法特論Ⅰ 保険体育研究法特論Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境科学</li> <li>・化学物質の生態影響評価システム</li> <li>・環境生物に対する構造活性相関</li> </ul>

技術教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 田中通義	技術科教育特論 技術科教育演習 木材加工特論 木材加工演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術教育(工業教育)</li> <li>・加工技術の指導方法</li> <li>・教材・教具の開発</li> </ul>
未定	工業科教育特論 工業科教育演習 マルチメディア教育特論 マルチメディア教育演習	
未定	電気工学特論 電気工学演習	
未定	機械工学特論Ⅰ 機械工学演習Ⅰ	
准教授 池崎八生	機械工学特論Ⅱ 機械工学演習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用工作機械</li> <li>・加工の知能化</li> <li>・メカトロニクス</li> </ul>
教授 谷野勝敏	情報基礎特論Ⅰ 情報基礎特論Ⅱ 情報基礎演習Ⅰ 情報基礎演習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニアモータの磁界分析</li> <li>・有限要素法</li> <li>・インターネットの教育利用に関する研究</li> </ul>
全教員	技術科教育実践研究Ⅰ 技術科教育実践研究Ⅱ 工業科教育実践研究Ⅰ 工業科教育実践研究Ⅱ	

家政教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 久保加津代	家庭科教育特論Ⅰ 家庭科教育演習Ⅰ 住居学特論 住居学演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育学</li> <li>・住生活論</li> </ul>
教授 財津庸子	家庭科教育特論Ⅱ 家庭科教育特論Ⅲ 家庭科教育演習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育学</li> <li>・消費者教育</li> </ul>
未定	食生活学特論Ⅰ 食生活学特論Ⅱ 食生活学演習	
教授 望月聡	食物学特論Ⅰ 食物学特論Ⅱ 食物学演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の機能性</li> <li>・魚類の鮮度保持に関する研究</li> <li>・ハーブの成分と機能性</li> </ul>

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
未定	被服学特論	
准教授 掘越紀香	保育学特論Ⅰ 保育学特論Ⅱ 保育学演習	・幼児の仲間関係・遊び ・子育て支援
教授 根笈美代子	家庭経営学特論 家庭経営学演習	・家庭管理 ・家族福祉 ・ジェンダー
全教員	家庭科教育実践研究Ⅰ 家庭科教育実践研究Ⅱ	

英語教育専修

担当教員	授業科目名	教員の専門研究分野又はテーマ
教授 柳井智彦	英語科教育特論Ⅰ 英語科教育演習Ⅰ	・英語教育学(授業研究・指導法研究)
准教授 御手洗靖	英語科教育特論Ⅱ 英語科教育特論Ⅲ 英語科教育演習Ⅱ 英語科教育演習Ⅲ	・英語教育学(習得論・教材論)
准教授 橋本美喜男	英語学特論 英語学演習	・英語学(統語論・意味論)
教授 池内宣夫	言語学特論 言語学演習	・ドイツ語学
教授 稲用茂夫	英文学特論 英文学演習	・英文学(ミルトンの作品研究)
教授 金子光茂	米文学特論 米文学演習	・米文学(ホーソン文学の研究)
全教員	英語科教育実践研究Ⅰ 英語科教育実践研究Ⅱ	

**問い合わせ先**

出願にあたって不明な点等があった場合の照会は、下記に行ってください。

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

**大分大学学生支援部入試課**

TEL 097-554-6701

この募集要項の内容はホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)にも掲載されています。